研　修　参　加　報　告　書

令和７年１月２２日

会　派　名　日本共産党江南市議員団
会派代表者　掛布　まち子

参加者：三輪　陽子
研修参加の結果について、次のとおり報告します。

①

年 月 日	令和７年１月２０日（月）
研修時間	１３：００～１４：３０
研修場所	全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）（オンライン）
研修内容	アート×福祉

②

年 月 日	令和７年１月２０日（月）
研修時間	１４：５０～１６：２０
研修場所	全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）（オンライン）
研修内容	安心して認知症になれる社会を目指して ～１人ひとりのマイクロハピネスを 　みんなのウェルビーイングに～

③

年 月 日	令和７年１月２１日（火）
研修時間	９：００～１２：４５
研修場所	全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）（オンライン）
研修内容	・誰もが誰かの応援者　～「地域」で応援し合うために～ ・人と人、人と自然をつなぐ 　～地域内での資金循環の仕組みから～

研　修　参　加　報　告　書

①

年 月 日	令和７年１月２０日（月）
研修時間	１３：００～１４：３０
研修場所	全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）（オンライン）
研修内容	アート×福祉

■目的

　アート活動と医療・福祉・テクノロジーを組み合わせた文化的処方を地域に浸透させることによって人々が社会に参加するための新しい回路を開く方策をさぐる。

■内容

アート×福祉

講師：東京藝術大学　学長　日比野　克彦　氏

１．アートを障がい者などのハンディとせず、新しい芸術の発見としたことがアートと福祉をつなぐきっかけになった

２．東京藝術大学発信の取り組み

・日比野ホスピタル

　２人で会話しながら空を描く

　互いの怒りを共有して角を作る（節分の取り組み）

　海の中にあるものを水上にうかべる

・こよみのよぶね

　１から１２の数字を毎年作って冬至に鵜飼い船に乗せる

・アートまるケット

　岐阜県美術館の外で花を観賞する

３．地域で多様な人の中で芸術をつくる必要性

・香川大学と共同の瀬戸内分校

　社会人と芸大生が１年間いっしょに学ぶ　芸大 DOOR

　地域が推す文化を発掘していくことが必要

■所感

　障がいを持った人など多様な人が集まって芸術をつくることが地域づくりになり、福祉の推進になることがわかった。

　江南市でもそのような取り組みができないか考えてみたい。

研　修　参　加　報　告　書

②

年 月 日	令和７年１月２０日（月）
研修時間	１４：５０～１６：２０
研修場所	全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）（オンライン）
研修内容	安心して認知症になれる社会を目指して ～１人ひとりのマイクロハピネスを 　みんなのウェルビーイングに～

■目的

　認知症になっても不安なく過ごすことのできるまちづくりの方策をさぐる。

■内容

安心して認知症になれる社会を目指して

～１人ひとりのマイクロハピネスを　みんなのウェルビーイングに～

講師：慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科　教授

　　認知症未来共創ハブ　代表　　堀田　聰子　氏

１．認知症とは

　認知機能が低下して、日常生活に支障を感じる状態になること

２．とりまく社会が変わって、認知機能が低下しても支障なく生活できるようにすればよい

　（例）視野が狭くなる　→　郵便局の〒の表示を大きく、見やすくする

　　真っ白なトイレ　→　ふたや床に色をつける

３．認知症をめぐる法整備

　２０１９年　認知症施策推進大綱

　２０２３年　認知症基本法

　認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができる地域をつくる。

４．マイクロハピネスをみんなのウェルビーイングに

　困りごとではなく、ちょっとした知恵や楽しみをまわりに伝えて共通点で集う楽しみをさがす。

■所感

　高齢化社会を迎え、認知症の方をどうサポートしていくかと考えていたが、困りごとをサポートするという視点ではなく、認知症の方が持っているマイクロハピネスに注目して、その尊厳、生きがいを大切にできる環境づくりをしていくという視点がすばらしく、市の取り組みに取り入れたい。

研　修　参　加　報　告　書

③

年 月 日	令和７年１月２１日（火）
研修時間	９：００～１２：４５
研修場所	全国市町村国際文化研修所（滋賀県大津市）（オンライン）
研修内容	・誰もが誰かの応援者　～「地域」で応援し合うために～ ・人と人、人と自然をつなぐ ～地域内での資金循環の仕組みから～

■目的

地域の中で人と人、人と自然をつなぎ、資金を循環させながら福祉を充実し、地域を活性化させる方策をさぐる。

■内容

・誰もが誰かの応援者　～「地域」で応援し合うために～

講師：社会福祉法人わたむきの里福祉会　理事
東近江圏域働き・暮らし応援センター　Tekito-（テキトー）前所長
野々村　光子　氏

・人と人、人と自然をつなぐ　～地域内での資金循環の仕組みから～

講師：公益財団法人東近江三方よし基金　常務理事兼事務局長
山口　美知子　氏

１．地域で応援し合うために

働き・暮らし応援センターTekito-を立ち上げ障がい者や引きこもりの人の働く場、居場所づくりをしている。

Team Norisiro　　隣のだれかを気にでき、つながれる。お互い様。

株式会社　BASYO　一人分の空席がある会社。

引きこもりの人に家以外の居場所を提供する。

親ができる支援と第三者ができる支援を見極めて支援する。

２．地域内での資金循環の仕組みをつくる

・休眠預金などを活用して、地域でお金を回す。
資金分配団体になって、ひとり親家庭などに配る。

・ローカルな援助で孤立した人と地域をつなぐ。

・市民から出資を募り、市内の団体に成果報酬型交付金として交付する。
地域の子どもの居場所づくり
障がい者の就労支援
特産品のブランディングなど

■所感

　地域で制度の狭間で孤立している人をまわりとつなぎ、地域おこしにまでつなげているパワフルな活動に感動。

　休眠預金の活用や市民からの出資制度など、行政に頼るだけでなく、市民が動いて地域循環型の資金調達ができ、それがまちの活性化につながっていることは大変すばらしい。まず休眠預金活用のノウハウなどを学習していきたい。